

## 握手会にて

江田

久保

松本

三橋

秋山

ここは、いわき市のライブハウス「club NEO iwaki」。ご当地アイドル「HANIWAっ娘」のミニライブ&握手会が開催される。ファンである通称「HANIオタ」たちは開場を心待ちにしている。江田は誕生日の寄せ書き集めに奔走している。

江田「……すみません、しおりんへのメッセージお願いします……ありがとうございます」  
「メッセージお願いします。ありがとうございます」「……あっ、ありがとうございます」

三橋は少し離れて立っている。

江田「こんにちは、しおりんへのメッセージってまだ？」

三橋「はい」

江田「では、こちらをお願いします。好きな色使って大丈夫なんで」

三橋、色紙に寄せ書きを書く。

江田「（色紙を受け取って）ありがとう。東京から来たの？」

三橋「はい」

江田「おーすごいね」

三橋「いえ、別の用事で」

久保「SQ（エスキュー）！」

江田「また後でー（久保の所へ）」

久保「SQさ、昨日のコール何？」

江田「えっ、何すか？」

久保「HA-NI-WA」

江田「あー」

久保「そこで歌ってみ」

江田「ここっすか？」

久保「いや、その車のとこ。白線の前。OK」

江田「……♪土器土器コーフン、Go!Go!古墳」

久保「HA-NI-WA！」

江田「♪土器土器コーフン、Go!Go!古墳」

久保「HA-NI-WA！」

江田「♪ハニートラップ、いくよ♡」

久保「しおりん！」

江田「♪あなたと永遠に添い遂げるーロミオとジュリエットー」

久保「……もういいよ」

江田「すいません、ありがとうございます」

久保「わかった？♪土器土器コーフン、Go!Go!古墳の『ふ』に合わせるの」

江田「♪土器土器コーフンの『フ』じゃなくて、古墳の『ふ』ですよ？」

久保「そう、早くてもダメなの。ジャストで古墳に入れて。SQのは遅いんだよ。古墳閉じちゃってるから。しおりんも歌いにくいよ。やってみ」

久保と江田の場所チェンジ。続いて久保が歌い、江田がコールを入れる。うまくいったり、いかなかったり。そこに松本登場。

松本「おお、やっとなるね」

久保「ああ、まっつん、お疲れ様です。今日も気合い入ってるね、（鉢巻を指し）神風」

江田「あ、まっつんさんお疲れ様です。まっつんさんはこちらにメッセージお願いします」

松本、色紙に寄せ書きを書く。

松本「大丈夫？ 花束のタイミング」

江田「ええ、バッチリっす」

久保「まっつんさ、歌い出しの『♫HANIかんでHANIWAー』ってところになんかコール入れられないかな」

松本「そうだな、モジモジ、いや、クネクネとかどうだろう？」

久保「SQ」

江田、車の方まで行こうとする。

久保「そこでいいよ」

江田「♫HANIかんでHANIWAー恥じらって君はー」

久保「（手拍子をつけて）クネクネクネクネ……」

松本「おーいいじゃん」

久保「そうかな」

松本「手拍子じゃなくて、動きをつけてもいいかも。SQ君」

江田「♫HANIかんでHANIWAー恥じらって君はー」

久保「（動きをつけて）クネクネクネクネ……おお、いいかも。早速今日やってみるよ」

松本「埴輪にはユニークなもの多いからね。クネクネした」

江田「そうっすよね」

久保「まっつんは勉強家なんだよ」

江田「俺も負けないっすよ（カメラを撮る真似をして）カメラなら。最近腕も上がってアクセス数ばないんすよ」

久保「お前のはエロ目的だろ。この前も下から撮ってたし」

江田「紫陽花祭りのときっすか？ 普通に撮ってただけっすよ」

久保「お前確実にパンチラ狙ってたじゃん」

江田「いやいや、一番前のおっさんが（しゃがみこんで）もうこんな感じで。あれ盗撮っすよ」

松本「スカートの丈が短すぎるんだよ。古墳時代、女性は裳（も）って名前のロングスカートを履いてたんだ。それに卑弥呼のことは知ってるよね？ HANIWAっ娘は言わば神に仕える巫女なんだよ。すごくピュアな存在なんだ。だけど、最近の衣装は酷すぎる。下品なコスプレだよ」

江田「まあまあ、最近の運営はイケイケっすからね。川崎アイドルアワードで決勝残ってから」

松本「あれは惜しかったけど、前のままでいいんだよ。人前に出して恥ずかしいくらいが丁度いいんだ。しかも新曲、メロディは今までにない感じで良いけどさ、女の子が、ガツガツしすぎだよ」

江田「そうすか、歌詞も今っぽくて好きですけど」

松本「控えめでいいんだよ、控えめで。男が狩りから帰ってくるのを待ってるみたいな」

江田「へえーまつつんさん、草食系かと思ってました。意外にも縄文寄りなんすね。告ったことあるんすか？」

松本「あるよ」

江田「誰にすか？」

松本「色々ですよ」

江田「さあやすか？」

松本「……」

江田「さくらたんじゃないっすよね？」

松本「……」

江田「しおりんっすか？」

松本「違いますよ」

江田「えっ、まじすか、すげー、どうでした？」

松本「SQ君カメラ見せてもらえますか？」

江田「え、なんですか」

松本「やましいことないんだよね」

江田「その前に質問に答えてくださいよー」

松本「答えたって」

江田「プライベートなものも入ってるんで」

松本「写真は個人的なものだろ！」

久保「パイセンにお見せしろよ、ほら」

久保、江田のカメラを松本に無理やり渡そうとする。

江田「やめてください、やめて、やめろー」

松本「静かに、運営こっち来るよ」

秋山来る。

秋山「どうしたの？ なんかトラブル？」

松本「秋山さん、なんでもないです。ちょっと、こっちのことなんで」

秋山「これ以上声あげたら、ね、あれだから。松本さんには申し訳ないけど」

松本「すみません」

秋山「今日はサプライズもあるからさ」

松本「楽しみにしています」

秋山去る。松本、江田からカメラを取りあげる。

江田「ああ」

松本「(カメラの画像を見て) 何、これ？」

江田「と、鳥だと思えます」

松本「違うよね」

江田「……」

松本「鳥にこんな足生えてないよね」

江田「……わかりません、でも鳥は好きです」

松本「これは預からせてもらいます」

江田「すみません、一瞬」

久保「データ抜く気だろ」

江田「いえ、あ、どうぞ」

秋山登場、入り口付近でアナウンス。

秋山「お待たせいたしました。只今より『HANIWAっ娘、古墳パーティ夏の陣～しおりん聖誕祭～』を開場します。お手元にチケットをご用意ください。なお、手荷物検査を実施いたしますので、鞆は開けたままでお願いします」

久保「あれ？ 検査だって、厳しくなったな」

江田「まだゆるいくらいっすよ」

久保「この前も櫛（けやき）であったもんな」

江田「握手会で発煙筒投げ込まれたんですけどっけ」

久保「うん、AKBのときみたく怪我人出なくてよかったけど、犯人には殺意があったらしい」

江田「まあ、こっちは平和ですよ」

久保「平和だねー」

松本「俺たちが平和を保たないとな」

久保「ヒーローかよ」

松本「いや、でもHANIオタはそうあるべきだよ」

久保「どういうこと？」

松本「AKBのやり方は間違っていない、商売としては正しいと思うよ。でもそれだと歪みが生まれるんだ」

江田「歪みって、握手会で暴れたり、総選挙で結婚発表するみたいなことっすか？」

松本「SQ、俺たちの使命を言ってみろ」

江田「HANIWAっ娘を応援すること」

松本「応援って何をするんだ？」

江田「それはライブに行って、盛り上げて、CDとかグッズを買って、ブログ読んで……」

松本「それじゃAKBと変わらんだろ」

江田「でもしおりんも、さあやも、さくらたんも、もっとメジャーになって、全国的に有名になりたいはずですよ。そりゃあ、AKB移籍したって言われたら怒りますけど……」

松本「これは俺たちの町についての話なんだ」

久保「また故郷がどうとかって話か、その話はもういいだろ」

秋山「皆さん入らないの？」

久保「行きます」

江田「(三橋に) 入らないの？」

三橋「いえ」

久保「おい、行くぞ」

江田「先行っててください」

久保、松本、手荷物検査を受けて、会場内へ。江田と三橋残る。

江田「どうしたの？」

三橋「いえ」

江田「初めて？」

三橋「ええ」

江田「サイリウムないなら貸すよ、多めに持ってるんだ。(鞆を見せて) ほら」

三橋「皆さんすごいですね、さっきから見てましたけど、熱というか」

江田「うん、俺たちHANIWAにかけてるからね」

三橋「ちなみに誰推しなんですか？」

江田「俺はさくらたん」

三橋「……さくらたん」

江田「でも今日はしおりんの日、知ってると思うけど」

三橋「今日、誕生日だったんですね、だからか」

江田「何が？」

三橋「エスキューさんでしたっけ？」

江田「うん、俺SQ」

三橋「なんでSQっていうんですか？」

江田「やっぱ気になるよね、なんでだと思う？」

三橋「……」

江田「S級美女ってAVばっか見てて、先輩につけられた」

三橋「……あの二人って先輩なんですね」

江田「うん、大学の先輩」

三橋「あの、神風の人すごいですね」

江田「ああ、まっつんさん？ 俺、あの人時々怖くなるんだ。俺とかはルックスで入ったんだけど、あの人は埴輪っていうか、歴史とかに興味があって、郷土愛が人一倍強い人だから」

三橋「そんな気がします」

江田「家の庭に小さい古墳作ったり、それこそ埴輪作ったり、WAっ娘と古墳入りたいて言ってみたり。言ってることが支離滅裂っていうか、辻褄が合っていないっていうか、いつか事件を起こさないか不安になるんだ」

三橋「整理ができてないんでしょうね、頭の中の。それこそ、動物的っていうか、良い意味でも悪い意味でもバカっていうか、だから、あの人、事件は起こさないと思いますよ」

江田「そうか、そうだといいんだけど」

三橋「事件は僕が起こします」

江田「え、何言ってるの？」

三橋「何度も反芻した答えです。詩織さん、もうアイドル辞めたいそうです。なんかファンもキモいし、マネージャーからセクハラ受れたり、町の企業の接待やらされたり。もともとキャバクラで働いていて、もっと稼げるよって言われて入ったんだけど、稼げないし、キャバクラよりももっとキツイことばかりで、死にたい死にたいって言ってますよ、ツイッターの裏垢で。俺、そういうのを見つけるの好きで、偶然見つけて、そこからメッセージでやり取りすることになったんだけど、今日が誕生日で本当によかった」

江田「しおりん、キャバで働いてたんだ……さくらたんも？」

三橋「さくらたんのことはわかりません」

会場内、開演を待つ多くのHANIオタ。HANIWAっ娘の曲が流れている。

松本「聞いてくれ、俺は化石になる準備を始めてる」

久保「埴輪はどこへ行ったんだ」

松本「埴輪はまだある。だが聞いてくれ」

久保「ああ」

松本「地層だと思った」



久保「今度は地層か」

松本「震災があったな」

久保「ああ」

松本「多くの人が命を落とした。でもそれは表層だと思った」

久保「表層？」

松本「つまり、地層にはもっと多くの死者が眠ってるって訳だ」

久保「それと化石になりたいってのと、お前が作ってる埴輪や古墳はどう関係してくるんだ？」

松本「わからない、でもWAっ娘は俺たちの嫁であり、俺たち自身だ」

久保「お前の話には付き合いきれんよ」

松本「俺たちはこの大きな古墳に骨を埋（うず）めるんだ」

久保「それは誰のための古墳だ？誰だ？偉い奴か？俺たちはここにいる限り、黙っていてもここで死ぬんだ」

松本「……俺はWAっ娘を応援しすぎた。金をかけすぎた。応援することでスカートの丈が縮むなら、俺は応援しないのも応援することにつながると思ってる」

久保「彼女たちのことも考えろよ」

松本「彼女たちってWAっ娘のことか？」

久保「他に誰がいる？ お前の大好きな故郷（ふるさと）のために頑張ってたんだ。そういえばさっき町の話がどうかと言ってたな」

松本「いつ？」

久保「外でだよ」

松本「忘れたよ。多分大事な話じゃなかったんだ。それよりSQまだかな、あいつ花持ってたよな」

会場外 江田と三橋。秋山の姿はない。

三橋「そもそもいわきって埴輪で有名なんですか？」

江田「古墳はあるよ、最近も発見があったみたい。でも観光ならアクアマリンとかハワイアンズの方が全然有名かな。行ってみたら？」

三橋「アクアマリンは昨日行きました。湯本にも行くつもりです」

江田「温泉いいね、湯本ならほるるは？駅近だし、化石とかも見れるし」

三橋「考えときます」

江田「そういえば君みたいな高校生が見つけたんじゃないっけ、化石。鈴木だか、佐藤だか、なんとかザウルスって名前がついてたよ」

三橋「俺も名前付けたいな」

江田「(笑) そういえばいわきの歴史は旧石器時代に遡るらしいよ。これ全部まつつんさん情報」

三橋「羨ましい、やっぱ仲いいんですね」

江田「そんなことないよ、カメラ取られちゃったし」

三橋「災難でしたね」

江田「あれ、あの中に本当に鳥の写真もあったんだよ」

三橋「……」

江田「そういえばサプライズってなんだろうね、知ってる？」

三橋「いえ、全然」

江田「そうだよな」

三橋「生きた化石は進化を語る。進化は進歩ではありません。絶滅の歴史です」

三橋「アクアマリンの入り口に書いてありました」

三橋「止めないんですか？」

江田「止めるよ」

三橋「決行は握手会的时候了」

江田「なんで俺に話したの？」

三橋「なんででしょうね。名前の由来、教えてくれたからかな、SQさん」

江田「あ、やば、もう開演なんで行かなきゃ。大事な役割があるから」

三橋「いつ渡すんですか？」

江田「しおりんのソロコーナー終わり。失敗したらまた久保さんに怒られるよ。行く？」

三橋「はい」

会場内 松本、久保

Overtureが流れる。手拍子。

HANIオタ「HA-NI-WA！」を繰り返す。

コールの途中で三橋が遅れて入ってくる。江田の姿はない。

HANIWAっ娘登場。大歓声。「しおりーん」「さくらたーん」「さあやー」等。

(了)